

# 主な外部表彰

## 2022年度表彰の紹介

### 「大和ハウスグループ みらい価値共創センター」が環境配慮物件として3件の賞を受賞

当社の設計・施工による研修施設「大和ハウスグループ みらい価値共創センター」(奈良県奈良市)は、先進的な省エネ技術を採用した環境配慮型施設です。さらに、外構に多様性の高い緑地を創出し、地域に開かれた施設として環境学習プログラムなどを定期的に開催しています。こうした地域の気候変動適応力を向上させる取り組みが高く評価され、「気候変動アクション大賞」を含む3件の賞を受賞しました。

環境省 令和4年度気候変動アクション環境大臣表彰 先進導入・積極実践部門(緩和・適応分野) 気候変動アクション大賞  
一般社団法人サステナブル経営推進機構 第5回エコプロアワード 優秀賞  
国土交通省 第3回グリーンインフラ大賞 生活空間部門 優秀賞



環境配慮型施設としてZEB Ready\*を実現した建物

\*ZEB Ready...再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費量を削減した建築物

### 「molten[the Box]」が第11回ひろしま建築文化賞で大賞を受賞

世界的なスポーツ用品メーカーである株式会社モルテン様のテクニカルセンター「molten[the Box]」が、当社の設計・施工により2022年に竣工し、広島県内の魅力ある建築と都市の建設に貢献したとして「ひろしま建築文化賞」の大賞を受賞しました。「Think outside the box(既成概念を超えて考えよう)」というメッセージを具現化した本物件は、さまざまな用途・空間から構成されています。多様な分野のクリエイターが交流・活動することで生み出される、地域活性化の核となる新たなもののづくりが期待されます。



新たなもののづくりの礎となる開発拠点

### 「ロマンスカーミュージアム」がグッドデザイン賞を受賞

当社が設計・施工し、2021年に開業した「ロマンスカーミュージアム」(神奈川県海老名市)が2022年度グッドデザイン賞を受賞しました。本施設は「Playing Garage(魅せる検車庫)」をデザインコンセプトに、隣接する海老名検車庫との一体感を醸成した、国内最大規模の民間鉄道博物館です。小田急電鉄様の特急電車として長く親しまれている歴代ロマンスカーの車両展示をはじめ、幅広い層の方々を楽しめる企画・デザイン設計が評価されました。



検車庫をイメージした臨場感ある展示演出

### 令和4年度 東京都女性活躍推進大賞 優秀賞(産業分野)を受賞

令和4年度東京都女性活躍推進大賞において優秀賞(産業分野)を受賞しました。本表彰制度は、東京都が、すべての女性が意欲と能力に応じて、多様な生き方が選択できる社会の実現に向けて、女性の活躍推進に取り組む企業や団体、個人を表彰するものです。女性総合職ネットワーク「F-net」を立ち上げ、組織的に女性活躍を推進している当社の取り組みが評価されました。



## その他の受賞

受賞名	表彰対象
公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会 第17回日本ファシリティマネジメント大賞 特別賞	大和ハウスグループ みらい価値共創センター (奈良県奈良市)
一般社団法人ニューオフィス推進協会 第35回日経ニューオフィス賞 ニューオフィス推進賞	大和ハウスグループ みらい価値共創センター (奈良県奈良市)
一般社団法人ニューオフィス推進協会 第35回日経ニューオフィス賞 東北ニューオフィス奨励賞	プレステージ・インターナショナル 秋田BPO横手キャンパス (秋田県横手市)
公益社団法人 全国市街地再開発協会 令和4年度 市街地再開発等功労者表彰	北4東6周辺地区市街地 再開発組合(北海道札幌市)

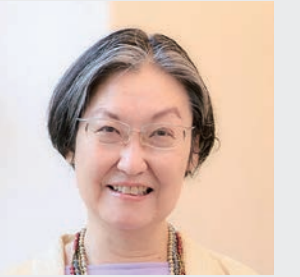
受賞名	表彰対象
大阪府大阪市 令和4年度おおさか環境にやさしい建築賞 商業施設その他部門賞	福岡運輸株式会社 大阪茨木配送センター (大阪府茨木市)
一般社団法人全日本建設技術協会 令和3年度全建賞 インフラ整備の事業及び施策の部 災害復旧・復興事業特別枠 河川部門	鬼怒川緊急対策プロジェクト (茨城県常陸市ほか)
東京労働局 令和4年度安全衛生に係る 東京労働局長表彰 優良賞	ザ・パークハウス 市谷加賀町 レジデンス(東京都新宿区)
一般社団法人公共建築協会 第18回公共建築賞 公共建築賞・優秀賞	新宿交通結節点整備事業/JR新宿 ミライナタワー(東京都渋谷区)

# 第三者意見

## 河口 真理子

立教大学特任教授、不二製油グループ本社ESGアドバイザー

一橋大学大学院修士課程修了(環境経済専攻) 2020年3月まで大和総研にて、サステナビリティの諸課題について、企業の立場(CSR)、投資家の立場(ESG投資)、生活者の立場(エシカル消費)の分野で20年以上調査研究、提言活動を行ってきた。現職では、サステナビリティ学についての教育と、エシカル消費、食品会社のエシカル経営に関わる。国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン、日本サステナブル投資フォーラム、WWFジャパンなどのNGO団体の役員も多数務める。著書は「ソーシャルファイナンスの教科書」、「SDGsで「変わる経済」と「新たな暮らし」(ともに生産性出版刊行)ほか。



今回初めて第三者意見を述べさせていただくにあたり、企業理念「自然を 社会を 街を そして人の心を豊かにするために フジタは たゆまず働く」を知り、大変感銘を受けました。そもそも建設業は、自然の中に、自然を制御・改変しつつ人工物を構築する仕事なので、人や技術を重視する理念やスローガンが多いのですが、あえて「自然」を最初にしたその姿勢と、社員全員がこの思いを共有されているのは素晴らしいです。

本報告書では、昨年策定したフジタ5カ年計画、環境行動計画「EGP2026」の初年度の実績が記載されています。DXとGXに同時に注力しいずれもGXを戦略として強化していること、長年地道に取り組んできたダイバーシティが対外的にも評価されていること、目標を大幅に上回るCO<sub>2</sub>排出削減を実現したこと、寄宿舎としては日本初のLEED認証とWELL認証を自社施設で取得したこと、生物多様性に関して「グリーンインフラ4原則」を策定したことなど、計画初年度にふさわしい前向きな姿勢が読み取れます。環境対策はデジタル技術と融合させることでさらなる進化が加速するので、いずれも戦略として強化していく経営判断には期待をします。また札幌市の街づくりは、今後目指すべきコンパクトシティとしての先駆的事例として私自身住んでみたいと思わせる再開発プロジェクトです。

一方で、活動が緒に就いたところなので課題も見えます。最初に気になったのは、シナリオ分析であげた4つの重要課題のうち、「脱炭素」、「労働・健康」の取り組みについての記載は多いものの、「自然資本」「災害・防災」についての記載があまり見られないことです。

## 第三者意見を受けて

河口様、この度は本レポートへの貴重なご意見を賜り、御礼を申し上げます。

サステナビリティの諸課題に精通した専門家のご意見は当社の情報開示を見直し続けていく上で、貴重な機会とらえております。長年の取り組みや新たなチャレンジに対外的な評価を得たことを励みとしながらも、ご指摘いただいた点に真摯に向き合い対処していく所存です。

まず重要課題のうち「自然資本」については、体系的な取り組みには至っていませんが、社内の生物多様性専門部会でネイチャーポジティブへの転換を模索しており、グリーンインフラ、在来種緑化、木構造物、農産物貯蔵などの技術開発を進めています。社内の経営課題としての位置づけ、認識を深めるとともに、その成果は建築・土木・まちづ

特に「自然資本」については、企業理念の最初に「自然」がある割には、取り組みが少ない印象です。「自然環境に配慮した建設事業を目指して」の箇所が該当するのかと思いましたが、せっかく「自然資本」を重要課題としたのであれば、自然の力を活用した環境対策ネイチャー・ベースド・ソリューション(NbS)に踏み込み、木材の調達と建築だけでなく土木事業を含めて包括的に自然資本と向き合った取り組みをお願いします。脱炭素と生物多様性は両輪ですから、すでに先行している脱炭素戦略とセットで行うのが効果的です。

さらに、生物多様性の取り組みとして開示されている森林破壊リスクのある木材調達率の低減は重要な取り組みです。しかし目標未達となっています。理解が進まないなどの理由がありましたが、根本原因についても知りたいところです。生物多様性を毀損するのは木材だけに限りません。ほかの調達資材や施工技術などの、生物多様性リスクの把握と削減の取り組みも進めていただきたいです。

重要課題の「災害・防災」に関してですが、今や気候変動による異常気象は、世界的な脅威です。これまで以上に災害に強いインフラ・街・建物が求められます。温暖化対策として緩和(脱炭素)中心から、適応(防災)も含む2軸を強く打ち出していくかがでしょうか。また、猛暑や台風、嵐、大雪などは、屋外作業にとり大敵であり、今まで以上に従業員の健康・安全対策が求められます。

いずれにせよ、未上場でありながらしっかりした報告書を開示することは、環境に大きな影響を与える建設会社の責務を果たしている査証です。フジタ5カ年計画とその先に向けて一層の取り組みと開示の進化を期待しています。

くりを通じてお客さまへ提案し実践してまいります。

一方「災害・防災」に関しては、自治体などと災害時協定を締結し、緊急時には支援物資の提供を続けるほか、遠隔操作ロボットなどの技術開発にも長年注力してきました。最近では専門部署を設置したほか、気象災害をリスクや緊急事態に反映、点検するよう施工プロセスも改定しております。持続可能でレジリエントな社会の実現に向け、具体的な成果を広く紹介できるよう、活動を継続、拡大してまいります。

企業理念を普遍的な考え方として、ステークホルダーの皆さまからのご期待に応え、行動していくことで、大和ハウスグループが目指す「将来の夢」の実現を目指してまいります。

執行役員 管理本部長 前原克亮